会報

無肥研だより

第14号

2021年 10 月 1 日 発行



今回は、8月22日(日)に開催いたしました福井県会員圃場の見学会につきまして、ご報告させて頂きます。昨年はコロナの影響で開催を中止し、2年越しの開催となりましたが、人数を制限し少人数での開催とするなど、コロナの感染防止に注意するとともに、参加者の皆様のご協力もいただきながら、無事開催させて頂くことができました。ただ、参加の申し込みを頂きながら、ご希望に添えなかった皆様には、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

★ 活動報告 圃場見学会 2021年8月22日(日)

(1) 中村孝太郎氏水田(福井県大野市下麻生嶋)

中村氏は慣行栽培・有機栽培でも水稲を栽培しておられますが、作付面積の半分強 3.6 ha を無施肥無農薬栽培(以下「無施肥栽培」という)でコシヒカリを作付けしておられ、隣接する勝山市にも無施肥無農薬水田があります。今回見学したのは大野市にあります 2008 年から 14 年目の 29.68 a と 2011 年から 11 年目 32.37 a の 2 筆の水田です。水田の作業は息子さんと二人でしておられます。体調の関係もあり乗用型除草機(テラガモ)での機械除草を孝太郎氏が担当し、それ以外の作業は長男の吉英氏が担当しておられます。課題である雑草は昨年の無肥研農産展で堆英明氏が講演された深水管理を参考にして今年は取り組まれ、一定の効果があったとのことです。8 月の長雨に悩まされたものの、例年よりも期待できそうとのことでした。きれいなイネが大きな穂をつけていました。収穫が楽しみです。





(2) 牧野太平氏水田(福井県福井市西堀町)

牧野氏は奥様が以前病気で食欲がなかった時に上記の中村氏の無施肥栽培米は食することが出来たので、それなら自分の家の田圃でも作ってほしいと奥様に言われたことがきっかけで、2009年より無施肥に切り替えられました。その水田(32.89 a)と翌2010年より2筆(26.93 a、22.56 a)

が加わり、3 筆の水田にコシヒカリを作付けされ、それぞれ 13 年目と 12 年目になります。その後、奥様も健康を回復され、今では夫婦一緒に除草作業に取り組んでおられます。今年は除草機を 1 台増やし 2 人で各水田 3 回~4 回除草に入られました。除草機は歩行型 3 連動力型除草機カルチャー(大竹)を使っておられます。また、今年は田植 1 ヶ月前より荒代搔きを行い、本代掻きまで深水を保って抑草に努め、田植え後の水管理も苗の成長と共にできる限りの深水にしたとのことです。中干は行われませんでした。とてもきれいで無駄のない水田です。葉が茂りすぎず、風通しのよさが、病虫害の少ない要因のように思われます。





(3) 尾形言成氏水田(福井県越前市三ツ屋町)

尾形氏は隣り合った 2 筆の水田でコシヒカリ(22.27 a 、2017 年より 5 年目)と日本晴(33.7 a、2020 年より 2 年目)を栽培されています。慣行栽培から無施肥栽培に切り替えてまだ比較的新しい水田です。特に日本晴は2年目で元の肥料分が生育に影響しているように思われました。まだ、特徴的な無施肥栽培水田の形にはなっていないように思われますが、5 年後、10 年後がどのようになっていくか楽しみです。尾形氏は 5 月に腰を痛められたために田植を知人に任せることになり、補植にも入ることも出来ず、欠株が出てしまったとのことでしたが、1 ヶ月休まれて腰痛も少し回復し、除草機を入れられるようになりました。機械除草(歩行型 3 連動力型除草機カルチャー(大竹))を 3 回入られたのみならず、手取り除草にも入っておられたので水田管理が上手くいったと仰っていました。もともとの地力も高く、収量が期待できそうです。





(4) 丸山茂子氏水田(福井県越前市西樫尾)

丸山氏はグループで協力して、コシヒカリを栽培されています。7aという小面積でしかも四角ではないため、管理は容易ではないとのことでした。しかも地の浅い田圃です。除草は歩行型2連動力型除草機(ミニエース)及び手取り除草をされました。機械除草を3回(6/6、6/13、6/20)、

さらに手取り除草を機械除草の後、毎週 2 回約 1.5~2 時間と、その後も出穂まで随時拾い草に入っておられます。無施肥栽培を 1997 年に始められて今年で 24 年になります。その年の天候状況にもよりますが、収量は反当り 400 kg 内外と比較的安定しています。イネが乏しい養分をうまく最大限に使った姿、無施肥栽培の究極の姿と堀江理事長が評されました。





後日、堀江理事長から下記の通り見学会の感想が寄せられましたので、紹介させていただきます。

福井の皆様の水田とイネの様子がよくわかりました。いずれの水田とも、若干のコナギの発生を除けばよく管理されており、イネも乏しい養分環境のもとで、贅肉やさしたる病虫害のない、とてもすっきりとした姿に育っていました。福井の栽培者の皆様のご努力により、無施肥無農薬栽培が地域農業の中で確かな地歩を築いてこられたことを伺い知ることができました。

★ 無施肥無農薬栽培茶の販売店が決まりました

無肥研の指定販売店であります小米茶園では、京都市で一番賑わう四条河原町に一昨年オープンした、食料品を扱うマーケットや、レストラン、ホテルが揃った、複合施設「GOOD NATURE

STATION」の 1 階食料品マーケットにて、6 月 26 日・27 日の両日、無施肥無農薬栽培茶のプロモーション販売をさせて頂きました。無施肥無農薬栽培を多くの方に知って頂き、本物の味を知って頂くため、また、お客様からの無施肥無農薬栽培農産物が購入出来るお店がありませんかとの声もあり、今回のプロモーション販売が実現致しました。同マーケットは、これまで無施肥無農薬栽培の農産物の取引はありませんが、

「心と体にいいこと、もっと楽しもう」をコンセプトに、オーガニック認証を取得した 農産物や加工品、お菓子、地元京都で育まれ



た健康にも地球にも優しい食品等を販売されています。当日は緊急事態宣言解除後のはじめての土曜日ということもあり、同ホテルに宿泊のお客様や、小さいお子様がおられるご家族、オーガニック食材目当てのお客様等、多くの方が来店されました。プロモーションでは、新茶(京都府産と滋賀県産)・ほうじ茶・紅茶の試飲をして頂き、淹れたてのお茶とその香りにお客様も足を止め、ゆっ

くりと味わいながら「美味しい」と仰って頂きました。「化学肥料・農薬はもとより、有機質も人為的には施さない、土の力を活かした農法であること」、「安心してお飲み頂けること」等、お客様とじっくりお話をしながら、産地の違う新茶の飲み比べ等もさせて頂きました。小さな女の子が新茶を試し、「おいしい」とお父様の分まで手を伸ばして飲んでおられました。プローション二日目には「昨日買った紅茶を、また買いに来ました」というお客様や、「この商品は SDGs*の取り組みにピッタリだね」と声を掛けて下さるお客様もおられました。どのお客様も熱心に説明を聞いて下さり、一般に流通しているお茶には肥料・農薬類がたくさん入っていることをご存じない方がほとんどでしたが、中には「お茶は農薬がいっぱいだから控えていたけれど、これなら大丈夫そうだね」とお買い上げ下さったお客様もおられました。今回のプロモーション販売の結果、人気のあったお茶5点(煎茶3、ほうじ茶1、紅茶1)を今後も継続して販売させて頂くことが決まりました。高級志向でこだわりのお店ですが、無施肥無農薬栽培というのは初めてです。現時点ではお茶の取り扱いのみですが、今後は野菜などの販売を目標に、無施肥無農薬栽培が一日も早く大勢の方に知って頂ける様に頑張ります。ありがとうございました。(小米茶園 小野豊)

*SDGs(エスディージーズ)とは 「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、 2015 年 9 月に国連で開かれたサミットの中で決めれらました。世界中の人々が平等かつ、安全に生きることのできる社会を作るため に策定された国際社会共通の 17 の目標と 169 のターゲットがあります。

★ 今後の行事予定

<u>2021年11月21日(日)</u> 農産展

詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。





昨年(2020年11月15日)の農産展の様子

会報についてのご意見を、 郵便、FAX、e-mailでお 寄せ下さい。皆様のお力で 会報を充実させていきた いと存じますので、ご協力 のほどお願い申し上げま す。(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2 【認定NPO法人】特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会 事務局 TEL: 075-751-0347 FAX: 075-334-8058